

尊厳死 かごしま

第 27 号

発行 日本尊厳死協会 かごしま
 事務局 〒892-0822 鹿児島市泉町1-15
 「公益財団法人慈愛会 事務局」内
 TEL 099-223-1131 FAX 099-223-2444
 URL <http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html>

限られた生をいかに生きるか—

—講師 日本尊厳死協会かごしま会長 納 光弘先生—

日本尊厳死協会かごしま 理事 上原 充世

2012年4月21日（土）午後 鹿児島県歴史資料センター黎明館講堂において、日本尊厳死協会かごしまの平成24年度総会・公開講座が開催されました。納先生のお話の一部をご紹介します。

<日野原先生のこと>

今年2月25日に開催された「新老人の会」鹿児島支部フォーラムで、日野原先生と5年前の約束が実現し、共に講演が出来たことをとても喜んでいらっしゃいました。その講演会で日野原先生が舞台上を動きながら、45分の予定を70分も立ったままでお話をされたその元気の源はなんだろう？

人間は年齢と共に、腎機能、肺機能は低下し30代と比較すると半分程度まで落ちるが、神経伝達機能は80%残されている。

日野原先生は、①100歳を超えてもなお「100歳は人生のスタートである」という前向きな考え方、②日々診療や執筆活動、大学院設置に向け奔走されていること、③ミュージカルの演出・出演で若者との交流など、先生は常に体・頭を使い活動されているので神経伝達機能が維持され“あのパワー”が出てくるのだろう。

<限りある人生をいかに生きるか>

納先生は、オーロラに大変興味を持ちカナダの北限で何日もかけ写真撮影に挑戦され、素晴らしい写真を披露されました。その、オーロラのきれいなこと、会場の参加者の皆さんから感嘆の声が聞こえてきました。これだけの写真が取れるには相当な苦労があったことが想像できます。本当に素敵でした。

鹿児島大学病院を退職された後、長年の夢であった絵画の世界に足を踏み入れ、桜島をモチーフにした作品を多く製作されています。自分の思う群青色を探り当てるために苦心され「天然岩絵の具」にたどり着いた。この絵具は大変高価なもので入手する

ことも難しいとのこと。これには奥様の深いご理解とご協力があったから実現したと奥様への感謝の言葉を述べられました。この群青色で描かれた作品は趣味の域を超え、日展や日展日本画春季展などに入選、MBC桜島展大賞等多くの賞を受賞されています。また、鹿児島市立病院の新築記念として描かれた桜島の絵（100号）の贈呈式が行われたこと。新病院の玄関に飾られるとのこと、新病院の開院が待ち遠しい限りです。

人間は必ず死を迎える。残された人生を健やかに安らかな最期を迎えるために、趣味の世界を例に御自分の生き方を話されました。参加者にとっては死を恐れることなく落ち着いて最後の日を迎えられるよう日常のあり方のヒントを下さったと思います。



<質問コーナー>

Q；尊厳死に対する法制化の動きは？

A；議員連盟で法制化への動きが見られていたが、政権交代、東日本大震災など大きな問題が山積み動きが遅れている

Q；難病患者さん方の尊厳死についてどう考えるか？

A；がん患者や植物状態の患者さんと難病の患者さんとは切り離して考える必要がある。治療に反応せず治療が難しい患者にとって積極的医療に

よる延命治療することの意義について問題にしており、その人らしい最期を迎えられるよう尊厳死（自然死）を提案している。しかし、難病の患者さん方は延命治療により長く生きることが可能である。難病患者さんとがん患者さん方とは別の次元で考えた方が良いと思う。

<アンケートより>

講演に対する参加者の意見の一部を紹介します。

1. 納先生の趣味を通してのお話・生きる姿勢は、とても参考になり自分自身の生き方ももっと深く考えていきたい。
2. 納先生の趣味の世界に魅せられました。情熱が大きな要素であると思いました。
3. 自分のできる範囲で体や精神活動も行っている。先生の生き方を伺ってとても勇気を頂きました。子供達にも「尊厳死宣言書」を準備したいと思えます。
4. 年齢に関係なくやりたいことをやるのが良いというのが印象的でした。
5. 限りある人生を前向きに進んでおられることにとても感動しました。
6. “たかが趣味 されど趣味” 納講師の具体的なお話が非常に分かりやすく、自分の人生をいかに充実して夢を追って行く事が大事かと深く考えました。
7. 当協会への認識は、如何に死ぬべきかの議論をする会かと思っていましたが、納先生の熱い講演に認識を新たにしました。叶う夢に向かってまい進したいと思います。
8. 先のこととしてあまり深く考えていなかったのですが、今日の講演の中で会員になる決意をしました。
9. “尊厳死は自然死である事” “前向きに生きることの心構え” “人生を豊かにする趣味を持つこと＝喜び”
10. 最後まで元気で過ごせるよう努力したい。「努力した人のみ夢はかなえられる」共感しました。
*その他、納先生のお話に感動した。趣味をもって生きよう。次回もぜひ参加したいなどの多くの意見が寄せられました。

生き方上手・死に方上手

—日本尊厳死協会かごしま公開懇話会・講演要旨—

日本尊厳死協会かごしま 名誉会長 内山 裕

はじめに

平成24年10月6日、かごしま市民福祉プラザに於いて開かれた標記懇話会の講演要旨を纏めてみました。初めに、私が所謂米寿を迎えていることに触れ、88年間生きてきた感懐、生かされてきた感謝を述べ、いまはただ、家庭に・社会にあること自体が静かな助言者である、そんな老人でありたい、と願っていると述べました。

健康寿命と死因変動

日常的に介護を必要としないで、自立した生活が出来る生存期間、所謂健康寿命について触れ、日本人の健康寿命をスライド

に示しながら、平均寿命との差、男9年余、女12年余の意味を考えたいと話しました。

スライドに日本人死因の年次変動を示し、1位がガン、2位が心臓病、3位が肺炎、4位が脳卒中であること、とりわけ肺炎の急増に懸念を示しました。

メタボリックシンドロームと認知症

次いでスライドを示しながら、高血圧症、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病は、自覚症に乏しく、日常生活に大きな支障がない場合が多いが、そのまま生活習慣を改善せずに経過すると、脳卒中や心筋梗塞、そ

の他重症な合併症に進展する危険性が高い病気であることを忘れてはならないと話しました。

更に、近年話題にされることの多いメタボリックシンドロームの診断基準を示しながら、不適切な食生活、運動不足、ストレス過剰、喫煙、飲酒など生活習慣の改善に取り組むたいと強調しました。

加えて、増加し続ける認知症の病態に触れ、認知症介護の基本として、次の5つのキーワードを挙げ説明を加えました。1, 敬意 2, 受容 3, 笑顔 4, スキンシップ 5, 馴染みの環境。

生き方上手五か条

スライドを示しながら、健やかに生きていくために次の五か条を説きました。要点のみを書いておきます。

1, 禁煙

喫煙は百害あって一利なし。受動喫煙を避ける。

政府のガン対策推進基本計画（日本人成人喫煙率 19.5%を 12%へ）

2, 塩分を控える

日本人 1日平均 13 グラムの塩分摂取を、1日 10 グラム未満へ。

濃い味付けよりも薄味になれる為の具体的な方策。

3, 腹八分目

腹八分目に医者いらず。

多様な食品と、箸休めの習慣が肝要であること。

4, 適度な運動

国が定めた運動の目標として、日常生活における歩数の増加を具体的に説明し、また、ラジオ体操やNHK TVのみんなの体操などは、毎日実行したいし、スロースクワットや筋肉のストレッチも心掛けたい。寝たきりの原因が、脳卒中に次いで多いのが転倒（屋内が多い）という事実を知っておくべきで

あること。

5, 頭を使って生きる

生活習慣病の予防・改善が、認知症の予防に繋がる事の認識が必要。

持続できる趣味を持つ。知的好奇心を失わないように心掛けるべきであること。

医療は変革の時代

医療が変わりつつあることを、スライドに示しながら、下記の項目について私の考えを説きました。

★ 「患」の字とは、心に串が刺さった形。口を二つ書いて棒でかんぬきをかけた字を心に載せている形。

★ 説得よりも納得。「傾聴」こそが肝要であること。

★ 手と目とで出来ている「看」の字。手の役割と目の役割を考える。

★ 臓器を診る医療から、人間まるごとを診る医療へ。

★ 病気としての治療「キユア」重点の病院医療から、病気や障害があっても地域「在宅」の生活の場で、最後まで生活を保障するケア志向の在宅医療・地域包括ケアへ（多職種連携）へ、時代は変わる事。

★ 人は皆、生・老・病・死の四つのステージを経験する。

★ 長寿を目指す延命医療から、天寿を全うする自然死（尊厳死・平穏死・納得死）へ。

三つの事件

終末期医療を考える際に、忘れてはならない三つの事件をスライドに示し、それぞれに提起された課題について考察を試みました。

★ 東海大学病院安楽死事件

平成3年4月、多発性骨髄腫に苦しむ男性患者に対し、家族からの強い要請を

受けて、主治医が塩化カリウムを静注、数分後に患者は死亡。医師は殺人罪で起訴。

★ 射水市民病院人工呼吸器取り外し事件

平成18年3月、昏睡状態で運び込まれた男性患者に付けられていた人工呼吸器を外すよう指示した外科部長の存在が全国報道。

★ エホバの証人輸血拒否事件

平成4年、エホバの証人の女性患者が肝臓癌の手術を受けるに際し、信仰上の理由から輸血を拒否していたのに、手術の際無断で輸血をされた事に対して損害賠償を求めていた裁判において、東大付属病院敗訴。

に欠かせないのは、リビング・ウィルに自分の意思を明示することだと説きました。

尊厳死という考えは、今や臨床の現場では定着しつつあるとはいうものの、終末期の患者が延命措置を望まない場合、延命措置をしない医師の免責（民事、刑事、行政上の責任を問われないこと）などを柱とする法律の存在が目下の急務である旨話しました。

おわりに

最後に生かされている「いのち」について、スライドを示しながら私の死生観を述べ「いのち」は永遠であると話し、締めくくりとしました。

死に方上手とリビング・ウィル

具体的事例を挙げながら、「死に方上手」

★役員会の動き★

第1回 平成24年10月6日(土) 午後4時より 7名出席

- 議 題
1. 九州支部平成24年度第1回理事会報告
 2. 講演会は春季と秋季の年2回開催とし、会報も年2回発行となる
 3. 出前講座の依頼は全件引き受ける
 4. 平成25年度総会・公開講演会の件
 5. 理事就任 黒野 明日嗣（老人保健施設長・医師）

第2回 平成25年3月23日(土) 午後3時より 8名出席

- 議 題
1. 平成25年度会計報告・平成25年度運営方針
 2. 秋季講演会について
 3. 会報発行について
 4. 平成25年度総会・公開講演会の詳細

第25年度総会・公開講演会のご案内

と き： 平成25年6月22日(土) 午後2時(開場1時30分)～4時

と ころ： 鹿児島県医師会館 鹿児島市中央町8-1 (TEL 099-254-8121)

※駐車場はございませんので公共交通機関をご利用ください

演 題： 『終末期のあり方とリビングウィル』

講 師： 岩尾 総一郎 先生(日本尊厳死協会理事長)

●入場無料●

講師プロフィール

いわお・そういちろう

慶應義塾大学医学部卒、厚労省医政局長、WHO健康開発センター所長、国際医療福祉大学副学長を経て、昨年5月より日本尊厳死協会理事長。
慶應義塾大学医学部客員教授、医師